

令和 7年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473100905	事業の開始年月日	平成17年3月1日
		指定年月日	平成18年4月1日
法人名	社会福祉法人 同塵会		
事業所名	日限山ホーム		
所在地	(〒 233 - 0015) 神奈川県横浜市港南区日限山-66-6		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員 計 ユニット数	18名 2ユニット
自己評価作成日	令和7年9月30日	評価結果 市町村受理日	令和7年12月10日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者とご家族、ボランティア、地域の方々との交流の場となるよう、また、ご入居者に季節感を感じていただけるよう年3回のイベントとして春に観桜会、夏に納涼会、冬にクリスマス忘年会を、秋はご入居者が外で昼食を食べる秋の散策を実施していましたが、今年度も感染症対策及び酷暑の影響にて中止しています。今夏は季節感を味わっていただけるよう朝顔をベランダと正面の花壇に植え、皆様に楽しんでいただきました。また、ボランティアの方に来館いただき、フルート演奏やマジックショー、希望者はお化粧も楽ししました。日常生活ではレクリエーションやテレビを使用して入居者の知る歌の録画番組を流したりラジオ体操を行っている。入居者のADLに合わせ屋上やベランダにて歩行訓練を兼ねて外気浴の実施やパズル、歌会、トランプなどをやって、楽しくメリハリのある生活ができるよう工夫しています。なお、時間に制限は設けていますが、対面での面会は常に実施しております。また、電話や一筆箋でもこまめにご本人の状況を報告しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和7年10月20日	評価機関 評価決定日	令和7年10月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】

◇利用者が豊かな生活を実感するための様々な取り組み
インフルエンザ流行の兆しがあり外出を控える環境の中で、利用者の体調維持・気分転換に向けて体操・屋上での歩行練習・外気浴・ランチ、食事メニュー（掲示）の手書きに参加、配膳下膳等への参加、トイレ自立使用の励行、ユニット共用ベランダへの自由な出入り、リビングの飾付け作成等、様々な機会をとらえて生活の実感を味わってもらっている。

◇職員育成に向けた研修

事業所内年間研修計画に沿って、認知症ケア、接遇、感染症予防、個人情報・プライバシー保護、BCP対応、身体拘束・虐待の防止等について学び、適切なケアサービスに結び付けている。特に認知症ケアの基本認識、高齢者虐待防止について再認識し、ケアへの反映に努めている。

【事業所が工夫している点】

◇Net配信研修への参加

介護関係のNet配信研修に契約し、職員が自分のタイミングで動画配信を通じて研修を受けることができるようしている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	日限山ホーム
ユニット名	1階

V アウトカム項目	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目 : 23, 24, 25)
	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目 : 18, 38)
	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目 : 38)
	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目 : 36, 37)
	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目 : 49)
	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目 : 30, 31)
	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目 : 28)
	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係がされている。 (参考項目 : 9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目 : 9, 10, 19)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目 : 4)	1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目 : 11, 12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日頃より意識できるよう、法人の理念をホームの玄関に、ホームの理念を事務室に掲示しています。また、ゆっくりと楽しく一緒に暮らせるホームである事を振り返るために、カンファレンス毎に職員間で確認しています。	・運営法人の理念(利用者への誠意)、事業所の理念(利用者の尊厳、ゆっくり楽しい暮らし)を事業所内に掲示し、スタッフ会議等の際に理念に立ち返り確認するように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者は地域住民の一人として自治会に加入しており、地域の方々との交流の場に一部入居者が参加させて頂いています。また、ホームのイベントにも参加して頂いています。(今年度は感染症対策及び酷暑の影響で参加は見合わせています)	・(感染症流行の兆しがあり現在は控えているが)地域行事への参加、歌や演奏ボランティアの受入れ等、利用者と地域住民との交流に力を入れています。昨年はマジックショー、フルート演奏を楽しんだ。	酷暑や感染症流行対応で外出や地域の人との交流がままならない中ですが、環境が整った暁には地域やボランティアとの交流を再開することが期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症高齢者グループホーム協議会や横浜市の研修等に参加しています。地域の方、家族の方々が認知症に関して分からぬ事などの情報や支援の方法など研修で学んだ事を運営推進会議等で発信しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に六回実施。入居者家族、地域の方々にご参加頂き、活動状況の報告をしています。ご家族の方々からの意見に耳を傾けカンファレンスで話し合い、サービス向上に活かしています。	・自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、利用者家族を構成員とし、年6回開催している。 ・地域の情報を得たり、家族意見を受けてケアサービスに反映している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター職員との連帯を図り協力関係を築いています。運営推進会議にも参加頂いています。	・港南区高齢・障害支援課の職員、地域包括支援センター職員と諸手続き、運営推進会議での情報交換等で密に連携している。 ・(今年度から始まった制度)港南区災害時協力事業所として登録した。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の廃止については法人研修や施設内研修を実施し、スタッフ間で共有しています。施錠に関して1階では玄関が車の往来が多い道路に面しており危険防止の為、通常はご家族了承のもと施錠しています。外庭への出入りは自由です。	・身体拘束適正化委員会を2か月毎（運営推進会議時）に開催し、会議内容を職員に周知している。 ・身体拘束廃止の研修を通じて定義の確認、事例研究をし、日常ケアに反映している。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止に係る一斉点検を実施の上、スタッフ間で話し合いの場及び研修を実施しました。また、見通しのいい職場作り、お互いに指摘し合える現場になるよう努め注意を払っています。	・高齢者虐待防止の研修とチェックリストで虐待発生要因、虐待と判断される言動や事例について学び、虐待防止に努めている。 ・虐待に通ずる言動を見たときは職員間で注意できるような風通しの良い職場作りに心掛けている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	横浜市高齢者グループホーム連絡会の研修を受講し、成年後見制度について学びました。今後もさらに情報を収集しスタッフに発信していきたいと考えております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時及び入居時に十分な時間を確保し、入居時や入居後の疑問や不安を解消できるよう説明しご理解、了承いただけるよう努めています。その上で契約を締結しております。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加の声掛けを行い、交流の場を設けております。またご家族からの意見苦情があった際にはカンファレンスにて報告し、話し合い対応策を検討しています。	・利用者との日常会話、家族面会、運営推進会議等を通じて利用者や家族の意見を把握し、会議、連絡ノートで職員間で情報共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	要望・意見・希望など記入してもらえるように職員専用のノートを設けています。内容によってはカンファレンスにて話し合いの場を設けています。また直接職員からの意見が聞けるよう管理者から積極的に声掛けをするよう努めています。	・日常会話、連絡ノートへの記入などで職員意見を把握し、フロア会議、ケアカンファレンスで検討し、可能なものは運営やケアに反映している。 ・職員が意見を出しやすい職場作りに管理者は努めている。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている	概略は本部に任せているが、相談には管理者がいつでも応じています。また、職員がやりがいを持てるよう、ホームの現状を法人本部や幹部会議及び施設長会に報告し、環境整備に努めている。	・運営法人による給与体系や就業環境が整備されている。 ・管理者は職員個々の努力や実績等を把握して考課表に反映し、労働意欲向上に努めている。 ・職員個々の有給休暇希望を把握してシフト配置に反映している。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外での研修に参加する機会や施設内研修を実施し、職員のスキルアップに努めています。また、新規入職職員についてはOJTを実施し、不安な点を解消できるように努めている。ネット配信研修を利用し、研修の機会を増やしている。	・運営法人内外の研修情報を得て、職員の研修参加を奨励している。事業所内の年間研修計画があり、職員の育成に寄与している。 ・介護に関するネット配信研修を契約し、場所・時間の自由度を確保して研修機会を増やしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内の施設間交流の機会を設けている。また、他施設の取り組みや情報を取り入れて、サービスの質の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	一日も早くホームに慣れて頂けるよう本人の席近くにスタッフを配置。耳を傾けながらコミュニケーションを取り安心感につながるよう努めています。また、入所前アセスメントによりご本人の趣味趣向を把握できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現状を聞きいれながらご本人のニーズに合った解決策をご家族と共に考えていくことで、不安を解消し、信頼関係を築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族と離れる事で不安になる方にはご家族との関わりを優先課題とし、ご家族の面会・外出・外泊などの方法を考え対応する。(感染症等の影響で面会が出来ない際は電話等を活用しています)		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事の手伝いなどに参加して頂いています。入居者からの励ましの言葉、いたわりの言葉、お叱りの言葉を頂きながらお互い様の精神で向き合えるような関係性を築いています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族参加のイベントは実施できませんでした。ご本人とご家族との絆を大切にするためにも、施設より積極的にご本人の生活状況等を報告している。また、日々の写真等も郵送している。時間制限は設けているが、常に面会は実施しています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が話してくださいる、馴染みの人や場所にその都度耳を傾け、話をうかがうように努めています。また、友人の方からの手紙や電話の交流も支援させていただいている。	・友人、知人の面会はほとんどないが、手紙、電話は時々ある。年末の年賀状作成を支援している。 ・馴染みの場所へは家族が連れて行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者同士より良く関わり合えるような席順を考慮。反目し合ってしまう際は、スタッフが間に入り調整。また日中リビングで過ごす方も多くスタッフを交えご入居者同士が交流出来るよう配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後同法人系列の施設へ転居するご入居者も多く、本人・家族の情報も入るようになっている。また、長期入院により退居されたケースについては、定期的にご本人の様子を伺いながら相談があればその都度対応できるよう応じています。		

III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前のアセスメント時にご本人の希望やご家族の希望を聞き取った上で、会話や表情など日常の様子からご本人の意向や希望をくみ取れるよう努めています。	・入居時のアセスメント、家族からの情報、利用者との日常会話を通じて、思いや意向を把握している。 ・利用者の表情や仕草等から思いを察し、又、本音を話せる時間帯（午後、夜等）に本人の思いを把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活状況や出身地などの聞き取りから得た情報を、スタッフで共有し合い把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	不安を訴えるご入居者がいる場合、ゆっくりと話しを聞ける時間を設けています。ご入居者ひとりひとりの生活ペースや行動の把握、表情の違いなどを見逃さないよう観察。情報を共有するよう声掛けを大切にしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニットごとで毎月カンファレンスを行いご入居者の課題を話し合う。ケアの実践を行い次回カンファレンスにて経過を確認、意見を出し合い計画を見直している。日々の生活状況の変化については申し送りノートを活用している。	・可能な職員が参加してフロア別にケアカンファレンスを毎月開催している。 ・医師、家族の意見、モニタリング結果を参考にして、利用者別に介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌・個人ケース記録・処遇ファイルに記入。朝、夕で申し送りをしています。また、タブレットの申し送りを活用しスタッフ間で情報の共有をしています。重要な事に関しては話し合います。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の意向が一番と考え寄り添い、現状でのニーズを見極めた上で、隨時柔軟に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の散歩等により地域の方との交流や日限山地区の集いに参加。楽しい一時が過ごせるよう支援しています。また地域での行事に参加して楽しむ事ができます。(感染症及び酷暑の影響により今年度は参加なし)		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、直接家族と話し合いの上で決めている。施設往診医との連携を密にし、家族対応の通院が出来ない場合ホームでの対応もしています。	・入所時に、従来のかかりつけ医か事業所協力医か選択してもらっている。 ・事業所協力医は内科医と歯科医で月2回の訪問診療を受けており、看護師（非常勤）も配置して適切な医療支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員はご入居者の日々の状態報告や相談を施設看護師に行った上で、アドバイスを受け業務にあたっている。また、施設往診時に施設看護師よりご本人の状態報告等を往診医に行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診の際家族の方に状況を説明。状態により処遇記録などをコピーして情報を伝えます。入院中の医師の説明には出来るだけ職員も同席する。退院時は医師、ケースワーカー、家族、職員でホームでの生活を考慮した上で話し合いを行っています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、身体状況等によりホームでの生活が困難になった際には、設備の整った特養へ移っていただくことをご理解いただいている。なお、病状によりホームへ戻る事ができない状況の時には担当医と調整をとり特養へ移る手続きして頂きます。	・入所時、事業所は看取りを行っていないことを家族に説明し、了解を得ている。 ・重度化し事業所生活が困難になっただときは、家族や担当医と相談し、医療機関への入院や事業所系列の特養に移るまで支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けています	研修等にできるだけ参加。急変時対応マニュアルに沿って対応できるようにしている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間帯を想定した防災訓練を、年2回行っております。消防士・民生委員・近隣住民の方との協力体制を取り実施しています。(消防署との調整状況により今年度は施設内のみでの実施としています)	・年2回夜間想定の防火訓練を実施している。 ・BCPは作成済みで、災害時の備蓄品は3日分を確保している。 ・区主催の「こうなん災害時協働隊」に登録し、地域に協力している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるため日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格・プライバシーの事などスタッフ間で共有し気をつけて対応している。馴れから生じる無神経な言動など気づいた事があった際はカンファレンスで話しあっている。	・事業所の理念「人間の尊厳を大切にし、ゆっくり楽しく暮らせるホームを目指して」を掲げ、カンファレンスにおいて利用者の尊厳を尊重することを指導している。 ・年間研修計画で身体拘束、個人情報、接遇等について学んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢が出来る状況を作りご入居者が自らの思いを表せるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中ではパズルやトランプ等のレクリエーションやラジオ体操、屋上やベランダでの外気浴等を実施していますが、その他の時間はご自分の居室で過ごされたり、リビングで談笑して過ごされたりとご本人の意志を尊重しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後の整髪のお手伝いを行ったり、髪の毛が伸びてきたなど感じた時には散髪して頂いています。またイベント時はおしゃれと思われる洋服をご本人と確認しながらおこなっている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き、下膳の手伝いをして頂いたり、昼食は職員もご入居者の間にに入って会話しながら楽しく食事ができるようにしている。(感染症対策により職員が一緒に食事をとることは中止している)	・利用者はテーブル拭き、下膳等の手伝いや、ホワイトボードへ献立書きを行っている。 ・季節の行事食は特別食を楽しみ、誕生会はケーキで祝っている。 ・食事は普通食、アレルギー食、キザミ食など利用者に対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎日記録し、特に水分については、こまめに声掛けを行い水分確保に努めている。また、食事量の少ない方については往診医に相談し、栄養補助食品も提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後職員が見守りや介助を行い口腔ケアをおこなっている。毎晩義歯洗浄剤を使用し清潔保時につとめている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の排泄間隔を把握し利用者に合わせトイレ誘導を行う事で失禁が少なくなるよう対応している。	・自立排泄、オムツ使用の減少を目指している。 ・排泄表に従いトイレ誘導を行い、失禁の減少に努めている。その際、利用者の尊厳・プライバシーに配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	10時のおやつにヨーグルトを毎日提供している。体操、歩行運動を行い体を動かす機会を作り、排便につなげている。また、排便が困難な方については、往診医に相談し、薬の調整を行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	原則2グループの分けて週2回の入浴を実施しています。希望により入浴の順番やシャワー浴も対応しています。また、ゆず湯や菖蒲湯など季節を感じて頂けるようにしています。	・入浴は週2日を基本とし、変更希望(時間、順番、シャワー浴)を叶えるように努めている。 ・ゆず湯、菖蒲湯等で季節を感じてもらい、優しい声掛けを大切にし、楽しく入浴して安全な入浴を提供している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調に合わせて昼寝をしていたり、就寝中は照明の明暗も好みに応じて対応。また、就寝時間も消灯は21:00としているが、居室でテレビを見て過ごされるご入居者もいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書を一括ファイル管理し全職員がいつでも見ることが可能である。服薬変更等があれば申し送りノートにて全職員が周知できるようにしている。症状の変化についても主治医、施設看護師との連携に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後の片付け、テーブル拭きやお盆拭きを手伝ってくれるご入居者や、趣味の塗り絵やパズルを楽しむ方やベランダを歩かれたりと気分転換をしている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には屋上で外気浴しながら季節を感じています。歩行状態の良い方については、ご家族との外出機会を持てるよう、働きかけています。	・施設内のベランダや屋上で外気浴や季節を感じている。居室から何時でもベランダに出ることができ、その際職員はチェックセンサーでベランダ利用を知り、安全を確保している。	・コロナ以降散歩を中止していますが、家族や地域住民、ボランティア等の力を借りて散歩を再開することが期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の機会が少ない入居者はお金を使う場面も少なく、本人が所持はしておりません。チラシを利用し旬の食べ物や値段をレクリエーションや会話の材料にしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要な時は職員がご家族等に電話をかけている。又、ご家族から掛かってきた電話の取次もおこなっている。自室内であれば携帯電話の使用も可能です。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前、各居室前には季節の飾りつけをしたり、すだれに写真を貼ったりしている。	・共用生活空間は、明るくて、清潔であり、快適な温度設定となっている。清掃も行き届き整理整頓されている。 ・トイレや浴室の入り口表示は見やすく、今日の曜日表示も大きな字で書かれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にソファーがありそこで談笑して過ごすなど自由に過ごせるようにしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた家具や布団、ピアノ、壁の飾り物、写真を飾ったりして過ごされています。火気の使用は出来ませんが仏壇を持ち込んでいる方もいます。	・ベッド、床頭台、クローゼットを事業所が用意し、利用者はカーテン、家具、布団、飾り物、写真等思い入れのあるもの、使い慣れたものを持ち込み、居心地よい部屋作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、手すりの設置の他各居室に利用者の名前と干支、トイレがわかるようドアに貼り表示している。		

事業所名	日限山ホーム
ユニット名	2階

V アウトカム項目	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目 : 23, 24, 25)
	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目 : 18, 38)
	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目 : 38)
	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目 : 36, 37)
	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目 : 49)
	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目 : 30, 31)
	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目 : 28)
	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係がされている。 (参考項目 : 9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目 : 9, 10, 19)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目 : 4)	1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目 : 11, 12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日頃より意識できるよう、法人の理念をホームの玄関に、ホームの理念を事務室に掲示しています。また、ゆっくりと楽しく一緒に暮らせるホームである事を振り返るためにも、カンファレンス毎に職員間で確認しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の方が歌や音楽演奏のボランティアに来てもらったり、コミュニティーハウスでの高齢者の集会等に利用者が参加するなど、地域との交流を図っています。(感染症対策及び酷暑の影響により今年度は参加を見合わせています)		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の行事などへの参加や地域ボランティアの方々との交流、また、防災訓練に地域の方も参加していただくななど、ご理解いただけるような機会を大切にしています。(感染症対策及び酷暑の影響により今年度の参加は見合わせています)		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、利用者の家族や自治会長、民生委員の方に参加いただき、施設サービスの内容報告と参加者からの様々なご意見をいただき話し合えることで、サービスの向上に努めています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター職員との連携を図り協力体制を築いています。運営推進会議にも参加いただいている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	現在、身体拘束の検討が必要な利用者はおりませんが、研修を実施し、職員の理解に努めている。2階玄関は階段、エレベーターへの出入りが危険な為、通常はご家族了承のもと施錠しています。ベランダへの出入りは自由です。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止に係る一斉点検を実施の上、スタッフ間で話し合いの場及び研修を実施しました。また、見通しのいい職場作り、お互いに指摘し合える現場になるよう努め注意を払っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	横浜市高齢者グループホーム連絡会の研修を受講し、成年後見制度について学びました。今後もさらに情報を収集しスタッフに発信していきたいと考えております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時及び入居時に十分な時間を確保し、入居時や入居後の疑問や不安を解消できるよう説明しご理解、了承いただけるよう努めています。その上で契約を締結しております。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加の声掛けを行い交流の場を設けております。また家族からの意見苦情があった際にはカンファレンスにて報告し、話し合い対応策を検討しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや業務時、また、職員が気づいたことを話しやすい環境作りに努めています。また、直接職員からの意見が聞けるよう管理者から積極的に声掛けをするように努めています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている	概略は本部に任せているが、相談には管理者がいつでも応じています。また、職員がやりがいを持てるよう、ホームの現状を法人本部や幹部会議及び施設長会に報告し、環境整備に努めている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外での研修に参加する機会や施設内研修を実施し、職員のスキルアップに努めています。また、新規入職職員についてはOJTを実施し、不安な点を解消できるように努めている。ネット配信研修を利用し、研修の機会を増やしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内の施設間交流の機会を設けている。また、他施設の取り組みや情報を取り入れて、サービスの質の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学時及び面接時、また、入居の際、本人や家族より多くの意見や希望を聞き、それぞれを丁寧に考え話し合うことで安心につながるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族の希望、意見を大切にし理解することから始め、双方の関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時及び入居時に本人や家族との十分な会話から情報を収集し、本人家族の納得のいく介護計画を作成し承諾いただけるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の生活から信頼関係を大切にし共に暮らす場としてお互いが支え合えるよう努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族参加のイベントが実施できませんでした。ご本人とご家族との絆を大切にするためにも、施設より積極的にご本人の生活状況等を報告している。また、日々の写真や一筆箋も郵送している。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年末は年賀状の作成を手伝い、家族や友人へ郵送します。故郷や友人の話を伺うなどし、支援できるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はリビングで過ごす方が多く職員をまじえレクリエーションを行ななどしながら利用者同士が交流できるよう配慮しています。また、入居して長い方は親しい関係でいる方も多くいます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後同法人系列の施設へ転居するご入居者も多く、本人・家族の情報も入るようになっている。また、長期入院により退居されたケースについては、定期的にご本人の様子を伺いながら相談があればその都度対応できるよう応じています。		

III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話や行動から把握し意向に添うよう心がけています。また、希望を訴えやすく、また、信頼関係が作れよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の施設利用時や家での生活状況や個別の生い立ちなどの聞き取りから得た情報を職員で共有し、把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の生活習慣や日々変動する心身状態を日常の小さな違いからも気づけるよう注意し観察。また、出来ることを決めつけず、把握と新たな発見に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで利用者の課題を話し合い、いろいろな角度から確認し意見を出し合い計画を見直しています。日々の生活状況の変化については申し送りノートを活用している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	数種の記録、カンファレンス報告書等の他、職員連絡ノートを作り、把握、共有、実践からも介護計画につなげています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との連携を図りサービスにつなげ、利用者の思いに答えるようカンファレンスなどで話し合う等、随時柔軟に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加やボランティアの来訪等、地域の一員として交流させていただいている。(感染症対策及び酷暑の影響により今年度は参加は見合わせています)		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は家族と話し合いの上で決定しています。必要に応じて協力病院の調整対応を行い、家族対応の通院が出来ない場合はホームでの対応も行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員はご入居者の日々の状態報告や相談を施設看護師に行った上で、アドバイスを受け業務にあたっている。また、施設往診時に施設看護師よりご本人の状態報告等を往診医に行っていている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診の際家族の方に状況を説明。状態により処遇記録などをコピーして情報を伝えます。入院中の医師の説明には出来るだけ職員も同席する。退院時は医師、ケースワーカー、家族、職員でホームでの生活を考慮した上で話し合いを行っています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、身体状況等によりホームでの生活が困難になった際には、設備の整った特養へ移っていただくことをご理解いただいている。なお、病状によりホームへ戻る事ができない状況の時には担当医と調整をとり特養へ移る手続きして頂きます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けています	研修等への参加の機会を設けるよう努めています。急変時は急変時対応マニュアルに沿って対応するようにしています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間帯を想定した防災訓練を、年2回行っております。消防士・民生委員・近隣住民の方との協力体制を取り実施しています。(消防署との調整状況により今年度は施設内のみでの実施としています)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるため日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月のカンファレンスで利用者への接遇を考えます。職員間で注意し合える環境作りも大切と考えています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者と職員が笑顔で会話する環境から個々の思うことを聞かせていただけるよう、そして、評価、尊重するように対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	任意参加でレクリエーションとラジオ体操、屋上の外気浴を実施しています。リクエストされるビデオ鑑賞など、個人の嗜好沿った生活をしていただけるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家具や寝具、洋服等は本人の好みに合わせ家族に用意していただきます。家族と連絡をとりながら季節毎の下着や服の依頼をすることもあります。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き、下膳、食器拭きを手伝っていただいています。食事中は入居者が好む音楽を流し、テーブルから献立が見えるようホワイトボードに書くことにより、献立についての会話も出来るようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、飲水量、毎月の体重を記録し確認しています。食事にかかる時間等も個別に観察、配慮しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの利用者に応じた手伝いをします。義歯安定剤の使用や毎晩、全員に義歯洗浄剤を使用し清潔保持に努めています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	決められたトイレ誘導時間はありません。それぞれの排泄パターンを把握し個々に対応することで失禁を減らし、排泄の習慣を崩さないようにしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中2回の体操、ベランダや屋上を利用し、外気浴しながら運動量を増やす、毎日1回ヨーグルトを食べる等により、自然排便につなげています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	1人週2回の入浴を実施しています。湯温や入浴時間など個人の好みに沿うような対応を心掛け、又、ゆず湯や菖蒲湯など季節を感じて頂けるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	帰室が自由な環境を作り、時間の使い方を選択できるようにしています。就寝中の照明の明暗や施錠等好みに応じ対応し、安眠できるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書を一括ファイルで管理し全職員が閲覧、確認をしています。服薬変更があった際は日誌記入と申し送りノートにて周知しています。医師、家族と連携を図り観察、確認をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員と食後の片付けの手伝いやタオルたたみ等日々の中で役割を持っていただいている。また、ベランダを散歩したり、居間や居室で好きな音楽を掛けるなど、職員がお手伝いをしています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外にかけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には屋上で外気浴しながら季節を感じています。歩行状態の良い方については、ご家族との外出機会を持てるよう、働きかけています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の機会が少ない入居者はお金を使う場面も少なく、本人が所持はしておりません。チラシを利用し旬の食べ物や値段をレクリエーションや会話の材料にしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からかかってきた電話は取り次ぎ対応を行っています。ご利用者からご家族への電話については今後、要望があれば家族と相談の上、対応します。自室内であれば携帯電話の使用も可能です。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設全体に淡色を多く使用し、リビングには植物を置くなど優しい色使いにし、居室はガラスを色分けしわかりやすくするなどし、過ごしやすい環境作りに努めています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外は自由席です。ソファーでテレビを見る、畳で横になる。テーブル席でお茶を飲むなど自由に過ごせるようにしています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使用していた家具や布団などをお持ちいただくようお願いしています。仏壇、大型テレビを使用する入居者や、壁に家族の写真を貼っている方もいます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、手すりの設置の他、設備的配慮とともに、各扉に名札や案内をつけるなどし、また、目線に合わせることにより、本人の意志による行動を自由にできるよう配慮しています。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 日限山ホーム

作成日 令和7年12月5日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	酷暑や感染症流行対応で外出や地域の方達との交流が少なくなっている状況である。	ボランティアの方達の受け入れ及び地域行事への参加を行っていく。	コロナ以前来館いただいたボランティアの方への声掛け及び新規ボランティアの拡充。地域行事参加時のスポット勤務の職員やボランティア等の活用。	3か月～6ヶ月
2	21	コロナ以降、散歩等の外出を行っていない。	近隣の散歩や施設玄関前の掃除等の再開。	ご家族やボランティア、スポット勤務の職員等を活用し、近隣の散歩や外出の企画等を行う。	3か月～6ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。